

● 若年性認知症とは

18歳から64歳までの世代に発症した認知症を若年性認知症といいます。若年性認知症は、全国で37,800人いると推計され（※1）、兵庫県下では1,600人いるものと推計されます。例えば、55歳～59歳の世代では、10万人に約115人の割合（1,000人に1,15人）で発症する（※2）とされており、この世代は、家庭や社会で重要な役割を担っていることから、本人はもとより家族や職場へ大きな影響を与えます。

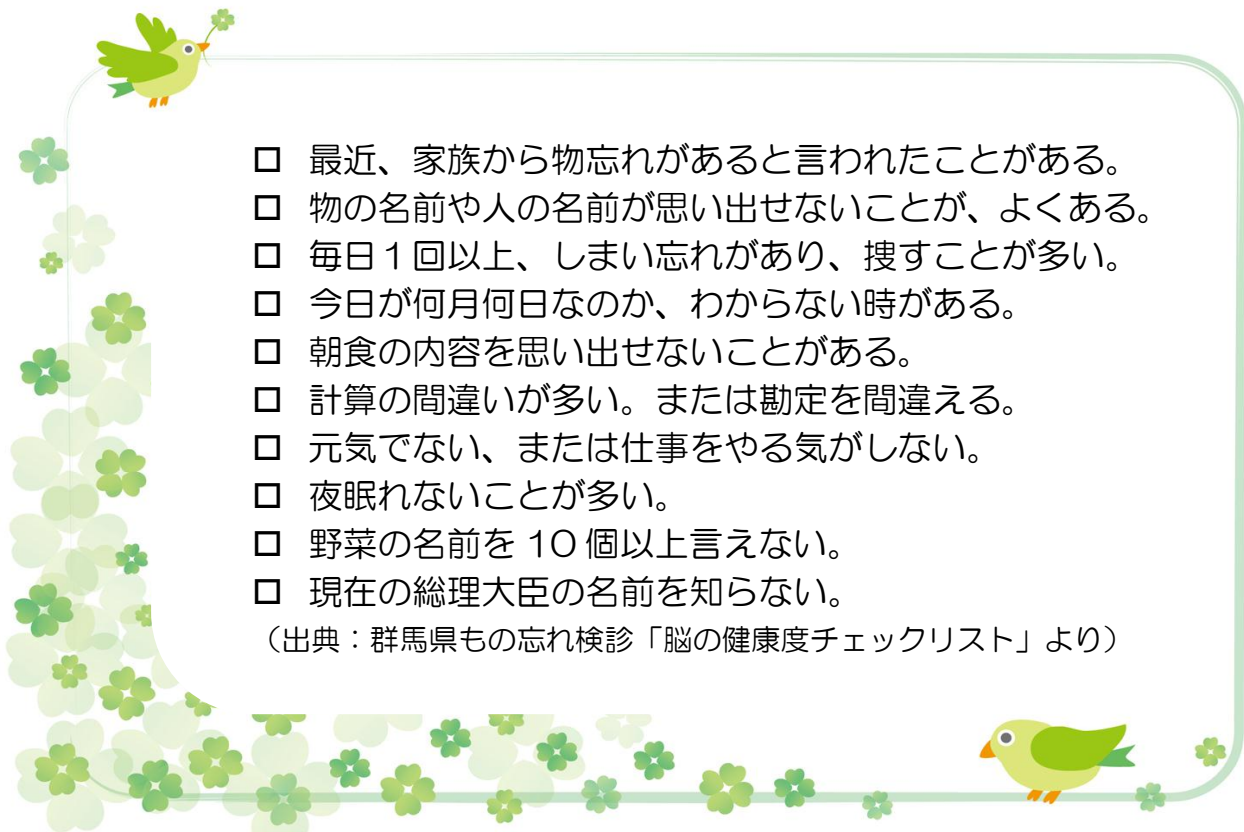
※1,2 「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」
（厚生労働省平成21年3月発表）

● 診察を受けましょう

早期発見・早期治療は、病気の進行を遅らせたり症状を改善させたりするだけでなく、状態によっては治るものもあります。早期に診断を受け、治療を開始することで、適切な治療環境を見つけ、将来の生活に向けた準備を進めることにもつながります。

● 認知症のチェックリスト

次のような変化が現れたら認知症を疑って受診をしましょう。

- 
- 最近、家族から物忘れがあると言われたことがある。
 - 物の名前や人の名前が思い出せないことが、よくある。
 - 毎日1回以上、しまい忘れがあり、探すことが多い。
 - 今日が何月何日なのか、わからない時がある。
 - 朝食の内容を思い出せないことがある。
 - 計算の間違が多い。または勘定を間違える。
 - 元気でない、または仕事をやる気がしない。
 - 夜眠れないことが多い。
 - 野菜の名前を10個以上言えない。
 - 現在の総理大臣の名前を知らない。

（出典：群馬県もの忘れ検診「脳の健康度チェックリスト」より）

上記の症状は全てではありませんが、3項目以上思い当たるようなことがあれば、先ずはかかりつけの先生や専門の病院に受診しましょう。

受診の際には普段気になっている症状をメモして持参すると良いでしょう。